

平成30年度第1回 壮瞥町総合教育会議議事録

1. 期 日 平成30年8月27日（月）
2. 場 所 地域交流センター山美湖 2階 研修室1、2
3. 開 会 午後4時00分
4. 閉 会 午後5時00分
5. 出 席 者
町長 佐藤 秀敏
教育委員 松永 美継
教育委員 金子 祐一
教育委員 濱田 美和子
教育委員 成澤 敏勇
教育長 田鍋 敏也
生涯学習課長 齋藤 誠士
総務課長 作田 宏明
総務課参事 上名 正樹
総務課企画財政係 武川 太郎
6. 議 事 (1)久保内小学校の今後の在り方について

議事大要 別紙のとおり

1. 開会

作田課長 皆さんこんにちは。本日はご多忙のところ出席いただき、誠に感謝申し上げます。定刻となりましたので、ただいまから、平成30年度第1回、総合教育会議を開催いたします。本日の司会を務めます、総務課長の作田と申します。よろしく願いいたします。

では、次第に沿いまして進めさせていただきます。まず始めに、佐藤町長からご挨拶をいただきます。

2. 町長、教育長挨拶

佐藤町長 皆さんこんにちは。平成30年度第1回壮警町総合教育会議の開催にあたりまして、一言ご挨拶を申し上げます。本日は皆様方、大変お忙しい中をご出席をいただきまして、ありがとうございます。また、日頃より町政、教育行政の推進に、ご理解とご協力をいただいていることに感謝を申し上げる次第であります。

さて、近年、全国的に少子化が進み、町内でも児童数の減少が顕著であり、特に、久保内小学校は、本年5名で、来年度も減少すると推計されております。

教育委員会では、将来を担う子ども達の望ましい教育環境について、検討がなされ、保護者や地域の皆さんと懇談をもったと承知をしております。

本日は、こうした経緯を踏まえ、小学校教育の在り方について、意見交換を行い、方向性を示す大切な場としておりますので、皆さん方のご意見の方をよろしく願いをいたします。簡単ではありますが、冒頭にあたりましてのご挨拶とさせていただきます。

作田課長 ありがとうございます。次に田鍋教育長からご挨拶をいただきたいと思っております。

田鍋教育長 皆様、改めましてこんにちは。教育委員会では、平成25年9月に定めました適正配置基本方針に基づきまして、平成29年3月に、中学校を統合いたしました。

町長のご挨拶のとおり、久保内校区の児童数が、減少が顕著であり、平成29年、昨年より保護者と意見交換を行ったり、アンケート調査を実施し、慎重に検討を重ねてきたところであります。適正配置基本方針には平成25年度の5年度版ですけれども、久保内小学校については「可能な限り存続させることが適当と考えられる」と、このように位置づけされておりますが、昨年の11月の段階では「変更する理由が見いだせない」とまとめたところであります。

しかし、今年に入り、小学校2年生1名が転校、更に児童数が減少となり、継続して意見交換を行い、6月以降、地域の皆さん、保護者の皆さんと、在り方について、懇談会、意見交換会を行ってきたところであります。

本件は、本町教育の将来を見据えつつも、学校は地域の拠点でもあり、まちづくりの根幹に関わる問題であるという認識も重要と考えます。

本日は、こうした経緯を基に、最終的な方向性を確認する大切な場、と認識しておりますので、よろしく願いをいたします。以上、簡単ではございますが、開会にあたってのご挨拶とさせていただきます。本日はよろしく願いをいたします。

3. 議題

作田課長 ありがとうございます。それでは、早速議事に入りたいと思います。
ここからの進行は佐藤町長に議長をお願いしたいと思います。よろしく願いいたします。

佐藤町長 それでは、議題に沿って進めさせていただきます。
まずは、久保内小学校の今後の在り方についてを検討いたします。それではまず、事務局から、これまでの経緯と児童数の推計、所見、この所見のもとに行った地域の団体や保護者、地域の皆さんと行った懇談会、協議の内容について、説明をお願いいたします。

齋藤課長 それでは資料に基づき説明をいたします。議案の2ページをお開きください。
まず経緯といたしまして、久保内小学校保護者の間で、平成28年度以降「学校行事の運営と少人数教育への懸念」の声があがっていました。

平成29年2月22日に教育委員会は、保護者と意見交換会を開催しております。

平成29年度、久保内小学校は丘の子応援団PTCAを導入しましたが、一方で、児童数の減少傾向は改善されず、保護者の意向調査を実施しております。

なお、それに先立ち、保護者との意見交換会も開催しております。児童数の動向や教育実践の現状とアンケート調査を実施するなど説明をさせていただいております。

10月に、教育委員会ではアンケート調査について3回の意見交換を行っております。

その中で、教育実践は評価され、教育的な観点を理由に統合の選択は難しい。中学校を統合したばかりであり、定住策がない中、話し合いは難しい。統合又は休校あるいは存続を選択しても、それぞれに課題があるが、保護者の校区移転への懸念は大きく、理事者判断が重要である。平成25年9月に定めた適正配置基本方針の「可能な限り存続させることが適当」を変更する理由が見いだせない状況ということでまとめさせていただいております。

11月27日、三役協議の際、教育委員会の見解を大切にしたいと理事者の考えを確認したところでございます。

12月15日には、議会で、アンケート調査結果と考え方について説明をしております。

平成30年3月になりまして、2年生が転校することとなり更に児童数減が判明をしております。

4月12日、教育委員会の協議会で、再度、検討することを確認し、以後、検討を進め、所見をまとめたところでございます。

ここで、3ページをお開きください。

これは、本年5月1日現在の児童数の推計と学校の体制でございます。昨年度末に、小学校2年生に在籍していた児童の転校が決まりました。

また、近隣から転校を検討していた家庭もありましたが、結局、転校しないこととなり、1年生は入学したものの、全体で5名、胆振管内で、礼文華小学校とともに、一番小さな学校となったところでございます。

なお、平成29年度は9名、平成30年度は今説明したとおり5名。31年度は4名の予定となっております。再び2ページに戻っていただき、中段になります、こうした状況で、教育委員会は所見をまとめました。

平成30年度は5名で学校経営がなされております。

31年度は、新入学予定の保護者が、壮瞥小学校への入学を希望しており、2年生1名と6年生2名の計3名の飛び複式学級となる可能性が高く、この場合、学級運営は、1名の担任が行うこととなりますが、教科や授業時数が異なり、教育活動に大きな支障を与えるものと考えられます。

推計では平成36年度には3学級10名となる予定ではありますが、今後、壮瞥小学校へ通わせたいという意向を持つ保護者がいることを確認しており、このとおりに見込めない要素もあります。

教育委員会では、2回の協議と、その間、6月15日に、理事者とも協議も行った中で、次のとおり、現状を整理しております。

ここまで児童数が減少した現状では、教育的な視点から久保内小学校での教育の継続は難しい。

現状と方向性を地域に説明し、協議を進める。

地域協議を経て、広い観点で教育委員会が検討し、町長が最終判断する。

こうした整理を行った後、地域の将来を考える団体、未来塾の皆さん、小学校の保護者とも懇談を持ち、経過については、議会に説明したところです。

その概要について、ご説明を申し上げます。

6月27日、午後7時から2時間にわたり久保内未来塾の皆さんと懇談しました。

未来塾メンバー23名中、14名の方々に出席をいただき、われわれ教育委員会からは教育委員全員と、教育長、私課長と、主幹も出席をいたしました。

未就学保護者を含む若い層からは閉校又は休校に賛成、全体としては残念だが、この人数では継続は難しい。学校の存在が若者の転出、地域の衰退を助長することは避けたい、廃校ではなく、休校が望ましいという意見が多かったところでございます。

また、7月5日、午後1時から久保内小学校の保護者の皆様と懇談をいたしました。保護者5世帯全員のお母さんに出席をいただきまして、閉校又は休校に異論はなく、措置決定後のことについての質問、意見交換がなされました。

7月17日には、議会全員協議会において、経緯と現状と今後の方向性につ

いて、議員の皆様にご説明を申し上げました。

出席された議員さんからは、保護者の考えを大切に、児童数の動向をみて判断すべき。保育所、中学校が一つとなっており、小学校も一つにして、本町のこれからの新たな教育システムを作る検討をした方がよい。PTCA等の取組は高く評価できるが、欠学年、飛び級という厳しい状況から、残念だが休校とする方向が望ましい。

などの意見が出され、今後、地域での説明、懇談を経て、方向付けがなされることが共有されたところでございます。

8月1日の午後6時30分からは、久保内小学校において、校区の皆さんと教育懇談会を開催いたしました。3名の議会議員さんを含む16名の方に出席をいただきまして、教育長、教育委員さん2名、私課長と久保内小学校の校長先生が出席をしております。

その中で出された意見としては、やむを得ない。反対である。未来塾でまとめられた意見の紹介、そして休校が望ましい。といった意見が出されております。

このほか、8月6日の午後4時から議会総務常任委員会による所管事務調査において、本件について、現状と今後の日程について、情報共有されたと認識をしております。

以上、これまでの経緯についての説明とさせていただきます。

佐藤町長 ただいま、事務局よりこれまでの経緯と所見と教育懇談会について、説明がありました。その内容の確認も含め、皆さん方のご意見をお受けしたいと思っております。どなたか確認等のご意見がございましたら、お願いをいたします。

よろしいでしょうか。確認したということで。

(はい、という声あり)

なければこの件は確認をしたということでよろしいでしょうか。

(はい、という声あり)

それでは、議題1のうち、2、今後の在り方について及び3の今後の進め方についてを議題といたします。説明をお願いいたします。

齋藤課長 それでは、4ページをお開き下さい。それでは2、今後の在り方について説明をさせていただきます。

教育委員会の所見、町長と教育委員との意見交換での確認事項を基に実施いたしました、久保内校区の保護者の方、地域住民、団体との懇談会における意見交換を踏まえ、平成30年度をもって、久保内小学校を休校といたしたいと思っております。

休校とする理由として、1つ目、中学校統合後間もなく、地域衰退への危機感が強い住民の意見であること。2つ目、保護者からの要望でもあること。3つ目、人口増や児童数の増等により、学校再開の機運が高まったとき、手続きが容易であること。

なお、この判断に基づく行事等につきましては、次のとおりとして、今後、調整をいたしたいと思います。1つ目、休校等に関する式典は、学年末終業式にあわせ実施し、別には行わない。2つ目、式典や記念誌の作成等は、今後、検討し調整する。

次に、3、今後の進め方について、説明をいたします。

9月4日火曜日午後6時30分より、農村環境改善センターにおいて、校区の住民の皆さんを対象にした説明会を開催いたします。これは町理事者も出席し、行う予定でございます。

次に、9月6日招集され、13日までを予定として開催される、第3回定例町議会の会期中に議会へ説明することとしております。

なお、北海道教育庁胆振教育局にも情報の提供を行っておりますが、今後も、説明し、必要な助言、支援をいただくこととしております。

10月以降、保護者、地域住民の方々に対しまして、休校措置決定にかかる、必要な事項の説明も行う予定としております。

また、ここでは表記しておりませんが、学校では、こうした方向付けを踏まえ、既に高学年で実施をしております合同授業を、低学年も含めて、充実強化を図るとともに、スクールバスの運行なども含め、円滑に移行するよう、諸準備を進めていく必要があると認識をしているところでございます。以上、説明といたします。

佐藤町長 ただいま、今後の在り方についてですね、事務局から説明がございました。教育の皆さん方におかれましてもですね。地域に入り、地域の皆さんと意見交換をされ、また保護者の皆さんともですね、意見交換をされたかなと思います。それを踏まえて、教育委員の皆さん方からご意見を頂戴したいというふうに思っています。ここで私の方から委員さんがどのようにお受け止めになったか、お聞かせいただければなというふうに思っております。

伺う順番ですけれども、どなたかから、松永委員からよろしいですか。

松永委員 それじゃあ、座ったままでよろしいですか？

(はい、という声あり)

いいですか、今までの会議等も経過した中で、自分なりにまとめましたので、お話をさせていただきたいというふうに思いますけれども。従来より久保内地域の教育力の高さっていうのは定評がありまして、地域住民が一体となった教育環境づくり、そしてそれに呼応するような形での熱心な学校の取り組みの中で、小規模ながら素晴らしい形での教育活動がなされてまいりました。そして、これを培ってきた地域の歴史と人々の思いを考えたときに、できれば学校を存続させたいと願ってまいりました。

ただいまの報告にあったとおり、ここ数年の久保内校区における児童数の減少傾向、また保育所が統合されたことによる、子ども達にできた人間関係の中で、壮瞥小学校と一緒に学びたいと思う児童と、同じように壮瞥小学校で学ば

せたいと思う保護者の意向が次第に強くなってまいりました。現行の中で、それが叶わなければ滝之町地区へ転居するという保護者の意向も出てまいったところでありました。

学校というものが、地域の拠点でありまして、これをなくすることは地域の衰退につながるというふうを考えて、私も含めて考えていた方々も多かったと思いますけれども、今、逆に学校を残すことで地域から離れる若者を作り出すような状況に変わってきたことを認識することとなりました。そして、先ほど報告があったように、未来塾での会合、それから地域説明会などの会合を通じながら、同じ学校での教育を望む意向が示されたというふうに判断をいたしました。

教育委員会としては、教育的見地から地域意向を最優先にする中で、また子ども達にとって、地域にとって最も良い選択をしていくために、もう毎回、何度も協議を経て、ただいま、課長の方から示された方向性、これを見出すに至ったものでありますから、町長様にはこの点については十分なご理解を踏まえて、よろしくご賢察をいただき、ご判断をお願いしたいと思いますし、またそのことを地域の皆さんにきちっと説明をしていただき、報告をし、そしてご理解をいただく作業を徹底してやっていただくことを心から望んでいるところでございます。以上でございます。

佐藤町長 ありがとうございました。いろいろと今までも教育委員の皆さん方が、久保内地域の皆さん方、あるいは保護者の皆さん方と意見交換をした結果、今松永委員がおっしゃったような意見が出されたような内容がですね、地域の方から出ているということでございますし。また、今後につきましては、来月の4日の日にですね。私も久保内校区、久保内地域に出かけまして、地域の皆さんに丁寧の説明をしたいというふうに思っております。よろしく願いいたします。次に金子委員よろしく申し上げます。よろしいですか。

金子委員 まず地域の方から。

佐藤町長 すみません。申し訳ない。では、地元の成澤委員にお願いいたします。

成澤委員 よろしく願いいたします。私自身も久保内地区に今現在居住しておりますし、私自身も久保内中学校も含め、久保内小学校卒業し、私の子ども達も久保内小学校を卒業しております。

そんな中、自分がいたときの久保内小学校の人数と今の人数比べると、本当に今少なくなっております。なおかつ自分の子ども達が行っていた数年前から比べても今現在通われている子ども達の人数は本当に少なくなったというふうに思っております。

ただ、以前より少ない人数だからこそできる教育、そういうものを久保内小学校はずっとやり続けていて下さっているというふうに私は思っております。

人数が少ないからいろんなことで不便だろうとか、できないことが多いだろう、そういう中、逆に少ないからこそできる教育というのを、本当に先生方を中心にして、その時その時の職員の方達が一生懸命子ども達、一人一人の子ども達に合う教育っていうんでしょうか。一人一人の子ども達を見て、本当に見て下さって、一人一人をのびのびと教育して下さっているというふうに僕は感じております。また、そこに子ども達、それから先生方、そして保護者、なおかつ地域の方達が入って行って、昨年からPTCAという形で、地域の方達ももっとも学校に入ってもらって、子ども達を、そして学校を盛り上げるようなかたちで実際にやっております。私自身も自分の子どもはもう小学校卒業しておりますけれども、PTCAという形で携わっていくということをさせていただいております。

その中、以前からもそうなんですけど、子ども達、少ないんですけど一人一人がしっかりと自分のやれること、やるべきことを一生懸命やっている姿っていうのが、日常の中で見えてきてます。例えば、去年からは地域の運動会になってますけど、運動会だったり、それからこれからもありますけども学芸会、それから地域のお祭りごとだったり、それから、ちょっと今日、本日私行けなかったんですけども、夏休みの自由研究発表会が今日午後からも久保内小学校でやっております。その中でもきっと今日もみんな子ども達は、5名の子ども達が一生懸命夏休みに取り組んだことを、地域の方達に10数名今日参加者がいらっしまったというふうに聞いております。きっと発表したんだろうなと思っております。少ないけれど本当に一人一人がのびのびと育つ環境が、本当に久保内小学校に現在もあるぞと思っております。

ただ、昨年から保護者の方達からの声。それから今も、今現在も僕の耳にも届いてます。今の保護者の方達、それからこれから子どもさん達を小学校にあげるべき保護者の方達、それからまだ子どもさんがいらっしゃらないけど、これから恐らくという方達の声も聞こえてきます。やはり現在、全校生徒5名、それから来年度はもっと少なくなるという数字も出ています。それに対する。そのことに対する不安というのは本当に大きく、あるというふうに感じております。

また、5年前からですか、平成25年度から保育所が1つになっております。その子達は今多分年長さんになっているのかなと思うんですね。今の久保内小学校の5、6年生、この4名は恐らく久保内保育所を多分わかっている子達かなと思っております。これから久保内小学校に通う子達はみな、そうべつ保育所に通ってる子達なんですね。その子達が保育所で切磋琢磨したものを、小学校の6年間久保内に離れ、そしてまた中学校で壮瞥中学校で一緒になるっていうことが現実としてある中、保護者の不安だったり、大丈夫だろうかという気持ちは本当に痛いほどわかります。

なおかつ、あまりにも少なくなったため、今の現在のこれからの来年度からですね。飛び級っていうんですか。この状況でのやはり、かなり子ども達の教育にとって、いかがなものかなというふうに思っております。

現在5、6年生は週に2回ずつ、壮警小学校の方にスクールバスでもって。今中学生、壮警中学校に通ってる久保内校区の中学生はスクールバスで元気に壮警中学校に通ってます。そんな中、小学校の高学年も一緒に朝バスに乗って壮警小学校で、短時間ですけど授業を受けるってことをされております。子ども達元気に行っているそうです。楽しいって高学年の子ども達は言ってるそうです。そんな中、確かに本当に久保内小学校休校、あるいはそういう形になるっていうのは本当に、悔しいですし、本当に残してあげたかったなって私自身、正直思ってるんですけども、その子ども達がこれから大人になって、社会人として大人として一人一人がしっかりやっていってもらうためにも、壮警小学校っていうところに来年の春から、スクールバスで通ってもらって、その中で仲間を作りながら切磋琢磨してもらおう。そして久保内にあったそういう教育力って言うて良いんでしょうか。地域の方達がどンドン入って行く、それから先生方も一生懸命子ども達一人一人を見てもらう、そういう教育がきっとこれからの新しい壮警小学校にもできるんじゃないかと思っています。確かな数字は今、僕わかりませんが、壮警小学校の校区の子ども達もだんだん少なくなっていくということもあるかと思っています。現在、一クラス一番多いところで20名超してるかもしれませんが、小さい学年になればなるほど、10数名という形に聞いております。ですから、壮警町の小学校として、立派な教育ができるようにこれからしていただきたいと思ひますし、自分も協力していけたらなと思ひます。

また、もう一つだけ、本当に地域に学校があるってことは本当に大切だと思ひます。ただ、これからそういう形になるのであれば、久保内の今現在ある様々なお祭りごとだったり、子ども達が参加するようなものを、形が変わってもいいので、僕達地域の者はそれをつなげていきたいなというふうに思ひます。今現在ある地域の運動会であったり、それから神社のお祭り、それから七夕祭り、様々あります。それを子ども達が、笑いながら参加できるようなものに、これからは形は変わるかもしれませんが、やっていきたいなというふうに思ひます。学校は近くにないかもしれませんが、わずか10分程度で着くところに学校があります。久保内校区に子ども達がいるということが僕は大事だと思ひます。そこから子ども達が出ていくんじゃないで、そこから新しい学校、新しい壮警小学校に通える状況っていうのをこれから作ってきたいなというふうに思ひしております。言葉足らずですけども、以上です。

佐藤町長 ありがとうございます。成澤委員においては地元ということで、地域のことは非常に共に皆さん方と一緒に活動されていってですね、地域のことはよくご存じのことと思ひしております。また、久保内小学校の教育環境についても、素晴らしい、ということは我々も承知をしておりますし、認めてもいるところでもございます。また、今年ですね、久保内、保育所を卒業された小学校1年生がですね、今久保内小学校に入学をされております。大運動会にですね、私も皆さん方と一緒にご出席させていただいて、・・・ちゃんを見て、

本当に地域の皆さんが子ども達のことをよく考えて下さっているなあと、いうふうに認識をしたところもございます。また、非常に残念なのは保育所から友達と一緒に遊んだ仲間達と別れるということは非常にかわいそうのような気もいたしました。

今後ですね、私自身のことを考えますと、昭和60年に、失礼、昭和52年に仲洞爺小学校が閉校になりました。その後もですね、やはり地域の皆さん方は子ども達や高齢者の皆さん方と一緒に運動会を数年間、継続してやったような記憶も今あります。非常にあの地域の活性化の意味においても、子どもが地域にすることが非常に大事なというふうに思っております。今の状況は仲洞爺、東湖畔地域でございますけれども、学校はなくても今、子どもさんが10数名いらっしゃる。そして今、地域の郷土芸能にも今は子どもさんが余る状況で、補欠を出さないと、補欠にしないといけない状況にあります。ですから、そういった環境に今後も久保内地域になっていってほしいなあとというふうに思っております。続きまして、金子委員さんよろしく願いいたします。

金子委員 私も、所見にまとまっているとおり、また松永さんと成澤さんと同じで休校は残念ながらやむを得ないのかなと思っております。

でも、私も教育委員として8年間久保内小学校の生徒さんを見させてもらって、本当に、学力体力はもちろん全国の平均をはるかに超えた点数ですし、また、他の地域の複式学級の生徒さんも結構視察とかさせてもらったんですけども、先生がいない時間でというのがどうしてもあるんですけど、そういった時間も、自学の時間も、久保内小学校の生徒さんは自分で目的を持って机に向かって、同級生の子がいたら一緒にやりとりしながら先生がいなくてもできるっていう意味では本当に素晴らしいなあと、いつも見させてもらっていました。

ていうのが本当に何ていうんでしょうかね、生徒数以外は本当素晴らしい、本当に久保内の地域の方々、丘の子農園も含めて学芸会、大運動会も含めて、こんなに理想的な、地域の皆さんと一緒にあった今の学校方針に適した地域だなと思うので、本当に残念ではないんですけども、2校区ある、校区が1つの保育所になる。自分の子どもだけが違う校区で一人で行かせてしまうという保護者の立場を考えると、私も子ども持っていますので、やっぱり校区を外してでも3年間、4年間培ったコミュニティ、協調性、仲間から自分の子どもだけを離すっていうのは、しょうがないというか、そういう気持ちはやっぱりわかりますし、保護者の気持ちを考えるとそうだなと思っています。

また、そうですね、学芸会もそうですし、他のバスで通ってる子ども達も同じ時間で久保内の子ども達もスクールバスがあれば通えるっていうこともありますし、それほど、久保内の子ども達の負担にならないんじゃないかなって思ってます。やっぱり、久保内小学校休校になりますけど、久保内地域の皆さんがやってきたことを、壮瞥小学校でもできないことはないと思うんですね。私も壮瞥小学校に通わせている保護者として、そういったものを取り入れなが

ら、さらに、久保内小学校の子ども達も含めて壮警小学校をさらにより良いものにしていきたいな、という思いであります。

佐藤町長 ありがとうございます。先程、学力体力とも素晴らしい教育環境の中で、子ども達は育ったというふうに認識をしております。中学校の体育大会ですか。それを拝見させていただいてもですね。久保内から通われている、久保内小学校で育った子ども達は、壮警中学校に来られて、体育祭に出られてですね、体育大会に出られて、非常に、記録を伸ばす子どもが久保内の子ども達ばかりで、校内記録も出した子どももね、昨年でしたか、ありました。そういう意味でも地域と連携された教育、素晴らしい教育をされてきたんだなあというふうに思っております。今後も引き続いてですね。久保内小学校で培われた教育環境をですね、今後壮警町にも根付かせていただければ大変ありがたいかなというふうに思っております。次に、最後になります、失礼。濱田さん、委員さんお願いします。

濱田委員 中学校の統合の後、約1年も経たないで小学校の父兄の方達が小学校の統合について、これからどうなるんだろうっていう、(傍聴席から声あり)、よろしいですか。ていうことをとても心配して、その中の久保内地区の方々、未来塾の方々とお話ししましたが、あのやはり未来塾の方ももっと早くっていう、学校を統合なり、休校なりっていうかたちをお話してたのが、少し驚きました。また久保内の小学校は、学校訪問で何度か生徒を見ていくと、一人一人が本当に挨拶もてきぱきとしていただき、一人一人助け合いながら勉強したり、体育の授業などは、やはり年上の子ども達が年下の子をとてこう、上手に引っ張っていったることがとても素晴らしく感じましたし、後は運動会では、地域の方達がものすごく協力して、とっても楽しく、何かこう、次の行事っていつでも、もうすぐ皆さんが出てくるぐらい、地域の方々とこんなに馴染んで、一緒になってしてっていくんだっていうのが、すごく感じられました。

やはり、そんな久保内の地域から小学校を、なくなるっていうことは、地域の方もとても寂しく思っているかと思いますが、今現在、1年生は1人、5年生は2人、6年生は2人で、5名っていうことで2、3、4がいないという飛び級になると。その1年生がこれからの教育っていうのが、小学校の校長先生が一番心配していたことですね。何度も、校長先生は、生徒がいないっていうことは今の1年生はとっても、今後、社会教育ってことに対して、とても心配していましたので、これから、壮警小学校に通い、たくさんの人達とふれあう。良い条件で学校を過ごせることを願っておりますので、よろしく願いいたします。

佐藤町長 ありがとうございます。久保内中学校が昨年統合してですね。間もなく、小学校がこのような状況になったということは、非常に私自身も残念であります

し、寂しい思いもしております。また、先程、未来塾がこういった内容について早くから意見が出ていたんではないかなというお話しでございましたけれども、実は春先にですね、今年の4月頃でしたでしょうか。未来塾の方にお邪魔をして、皆さん方と意見交換をした際にですね。大変保護者の皆さんから、やはり地元が大事だと、私達の。だけれども、やはり子どもの教育ということを考えると、どうしても考えざるを得ないことが多々ある。というご意見いただきました。その中で、今、濱田委員がですね、未来塾と懇談をされた折に、そういった意見がでたのかなというふうに思っております。今年になってから、ということで、ご承知おきを願いたいというふうに思っております。続きまして、田鍋教育長、よろしいですか。

田鍋教育長 今まで、4人の委員さんの意見を伺ってきたところですが、私からもですね、先程の挨拶、委員さんの意見と重複も若干あると思いますが、総括的にちょっとお話しをさせていただければと思っております。皆さんからありましたとおり、久保内小学校の学校区である地域にとっては、御挨拶でも申し上げましたけれども、平成29年3月に中学校を統合したところであります。その際、この教育委員の皆さんと5年前に行った統合に関する地域懇談の中でも、コミュニティ衰退への危機感を訴える切実な声を伺ってきたところであります。5年前、協議を、地域の皆さんと協議を行うにあたって作成しました、平成25年度版の適正配置基本方針では、久保内小学校はですね、その時の推計では平成28年度16名と推計されておりましたけれども、実際に平成28年度が11名。29年度は推計では15名でしたけれども、実際は9名。平成30年度、今年度はその当時の、5年前の推計では、推計といっても住民基本台帳に基づくものですが、12名が在籍する予定と、それが現実的には5名しか在籍していないと。大幅に減少しているところであります。こうした現状により、地域では、具体的で、かつ実践的な定住や人口増につながる施策の展開が待望され、現在も期待されているのだというふうに、私も認識しております。これは、我々行政に携わる者がしっかり受け止める必要があるのかなと、教育の分野を離れてもですね、このように思っているところであります。教育の面では個に応じた、個人個人に応じた教育を教職員が一丸となって推進し、また、新しい学習指導要領を見据えたPTCA、地域を巻き込んだ取り組みですとか、外国語の教科化を見据えた、例えば去年の学芸会でも英語劇、英語の歌など、素晴らしい教育が実践されています。教育委員会では、何とか残したい、むしろ残すべき教育実践がなされていると評価し、昨年末の評価を行ったところですが、更なる児童数の減少と、欠学年、飛び級を、飛び学級を生じている現状から、今年度も継続して検討をしてきたところです。児童数は一定数、推計では回復も見込まれますけれども、一方で、先程、委員さんからもありましたとおり、学校の存在が若者の転居、転出を助長するという懸念を、本当に出てきていると。このとおりに、推計どおりに進まないことも十分考慮しなければならないと、今後の在り方について、そうしたことから保護者、久保内未

来塾の皆様と、意見交換を実施してきたところであります。重複になりますけれども、教育委員会では慎重に検討を進め、本日の資料、先程生涯学習課長から説明があったとおり、そして委員各位からの発言のとおり、方向付けをしたところであります。これを踏まえまして、町、町長、町理事者において、最終的な判断がなされれば良いのかなど、このように、私なりに整理、考えておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

佐藤町長 ありがとうございます。ただいま、委員の皆さんや教育長からもですね、ご意見をいただきました。委員の皆さん方の、大体のですね、ご意見としては休校。子ども達の教育環境を考えた折に、時にはですね、休校もやむなしというようなご意見だったかなというふうに拝聴させていただきました。委員の皆さんにはですね。町の将来を思い、本当に、熱心に、協議と調整をいただいていると、認識をしております。

皆様の意見を踏まえ、私としては、平成30年度をもって久保内小学校を休校とします。その理由は中学校統合後、間もなく地域衰退への危機感が強い住民の意見であること。保護者からの要望であること。人口増や児童数の増等により、学校再開の機運が高まった時に手続きが容易であること。なお、この判断に基づく行事等については、休校に関する式典は学年末終業式に合わせ実施する。式典や記念誌の作成等は今後検討し、調整する。という考えに基づき、最終調整を図りたいというふうに考えています。

本日の議論を踏まえ、地元の皆さんへ説明会を開催し、第3回定例会中に議会と共に最終調整を図り、判断してまいりたいと考えておりますので、よろしく願いをいたします。この件について、また発言をしたいという方がございましたら。ございませんか。

(ないです、という声あり)

それではこの件についてはよろしいということで、ご理解をいたします。次に、議題2、その他についてですが、事務局の方に。

(特にありません、という声あり)

事務局の方からは特にないということでございます。委員の皆様方から何か、おっしゃることがございましたら、発言していただきたいというふうに思います。

松永委員 よろしいですか。

(はい、という声あり)

別件といいますか、教育委員会の中で以前からもなんとか検討を今後に向け

てしていかなければいけないという部分の、中学生のフィンランド派遣事業について、これからも教育委員会の中でですね、今、この久保内小学校のことについて協議をすることが非常に多くてですね。フィンランドの今後の在り方については、しばらくお休みをさせていただいていた状況でありますけれども、今後また、協議を再開しながらですね、フィンランドの事業の持ち方、進め方、今後の方向性。これをある程度示しながらですね、また、この総合教育会議、また理事者との事前の意見交換会等を通じてですね。それを良い方向にとり進めていきたいというふうに思っています。ここでの協議ということではございませんけれども、そんな思いであることも、お含みをいただければというふうに思っているところであります。以上です。

佐藤町長 わかりました。あとよろしいですか。

(はい、という声あり)

本日の会議は、予定した議題は以上でございます。本町の教育行政には本件の他にも、中学校の校舎整備について、ただいま松永委員から出ておりましたけれども、フィンランド国派遣事業の今後について等、方向付けすべき事項が多数あります。教育委員の皆さんには本町教育では方向付けすべき事項が多数ある中ですが、より良い教育環境づくりに、今後も引き続きお力添えを賜りますよう、お願いしたいというふうに考えております。また適宜、総合教育会議の場において、意見交換をさせていただきたいと思っておりますので、よろしくお願いをいたします。

4. 閉会

作田課長 本日は長時間にわたりまして、ご協議いただき、改めて感謝申し上げます。以上をもちまして、平成30年度第1回壮警町総合教育会議を終了いたします。ありがとうございました。